



岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは「バイオ炭で農業のCO2削減」

植物は成長時にCO2を吸収しますが、分解時にCO2を放出する時、分解しにくい炭にすれば吸収したCO2を閉じ込めることができる。

炭を土壌改良材としてまき、CO2を農地に閉じ込めるのがバイオ炭です。
導入の狙いは「脱炭素がさまざまな分野で課題となる中で、農業でも今後、対応は避けては通れない」のです。

竹は炭だけでなく、竹粉堆肥でお米の糖度を上げて付加価値もつけられるのです。

三重県朝日町の米生産者は4月下旬、地元で伐採した竹を活用した米作りを始めました。
チップ状に破碎した竹を発酵させて、竹粉堆肥を水田の土に混ぜ込み、よりおいしい米作りを目指したのです。
米の糖度を高めるには竹粉堆肥が効果的ではないかと、実証試験を始めたのです。

町内で2月に伐採しチップ状にした竹3.5トンを発酵させ堆肥化して、水田の土に混ぜ込みコシヒカリの苗を植えて、9月上旬に初収穫をむかえ販売拡大も期待できます。

広い竹林面積を抱える市町村が多く、竹林管理や竹資源の有効活用・肥料代高騰への対策にもなります。
時間はかかるが、少しずつ取り組み、その効果に期待したいですね。

～～～展示会出展のご提案～～～

FOODSTYLE (フードスタイル)
会期：2023年9月13日(水)～14日(木)
会場：東京ビックサイト 東1～3ホール
小間番号：3A-17

■代替肉パビリオン フェイクミート・ピープロテインのご提案しています。

招待状ご希望の方はお問い合わせください。